

平成 20 年度化学物質環境リスクに関する国際シンポジウムについて

1. 趣旨

今日の社会では、産業活動や日常生活の中で多種多様な化学物質が利用されると共に、廃棄物等の焼却等により、意図していない化学物質が発生することがある。これらの化学物質は、現在の豊かな経済活動や国民生活を支える一方で、環境汚染をもたらし、人の健康や生態系に悪影響を及ぼすおそれ(環境リスク)を生じさせている。

環境省は、環境リスクを科学的に評価し、その低減を図るために様々な取組を行っている。本シンポジウムは、その一環として、化学物質の内分泌かく乱作用や小児・胎児の発達・発育への影響など、環境保健分野における諸課題について、国内外の正確な情報を市民、産業、行政等の全ての者が共有し、相互に意思疎通を図ることを目的として開催する。

2. 日時：平成 20 年 12 月 14 日(日)13:00～16:30 開会式・公開シンポジウム
15 日(月) 9:00～18:00 専門家による公開セッション 1～3

3. 場所：東京ビッグサイト(東京国際展示場)(<http://www.big sight.jp/>)
東京都江東区有明 3-21-1 (総合案内所)03-5530-1111

4. 主催：環境省

協力：東京都、(社)日本医師会、(社)日本看護協会、(社)日本栄養士会、(財)日本公衆衛生協会、(社)日本アレルギー学会、日本公衆衛生学会、(社)日本産科婦人科学会、(社)日本小児科学会、(特)日本免疫学会、日本内分泌攪乱化学物質学会

5. プログラム：別紙

6. パネル展示：東京都(東京都健康安全研究センター)、国立環境研究所、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本化学工業会、WWF ジャパン、シンポジウム講師等から計約 30 点を展示予定。

(参考) 平成 20 年度化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウムプログラム

平成 20 年 12 月 14 日(日) 第 1 日【会場：国際会議場】

13:00 開会式

公開シンポジウム (テーマ: ~未来に翔く子どもたちのために~)

映像 「未来に翔く子どもたちのために - 子どもの環境保健 - 」

- ・子どもの脆弱性とは
- ・世界各国で進む取組
- ・子どものために

基調講演

総合司会

内山 巖雄 (京都大学)

- ・ 子どもと環境

山崎 理華 (一般市民)

~一般市民の立場から~

- ・ 子どもを取り巻く環境と健康

緒方 勤 (国立成育医療センター)

- ・ オランダの現状と取組

アルバート ホフマン (オランダエラスムス大学)

~これまでの調査で分かったことと今後の課題~

- ・ 米国の現状と取組

エドワード B. クラーク (米国ユタ大学)

~小児環境保健法制定からナショナルチルドレン
スタディ (NCS) まで~

- ・ 日本における取組

佐藤 洋 (東北大学)

~ 小児環境保健の現状と課題 ~

16:30

専門家による公開セッション

9:00 ~ 12:00	<p>セッション 1 化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について</p> <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境が喘息病態・発症に及ぼす短期的及び長期的影響 アレルギー性皮膚疾患と環境因子 免疫・アレルギー系の制御機構 ダイオキシン受容体の機能と炎症性疾患 環境化学物質によるアレルギーの修飾 	<p>齋藤 博久 (国立成育医療センター)</p> <p>ゲイリー WK ウォン (香港中文大学)</p> <p>片山 一朗 (大阪大学)</p> <p>岩倉洋一郎 (東京大学医科学研究所)</p> <p>本橋ほづみ (東北大学)</p> <p>高野 裕久 (国立環境研究所)</p>
13:00 ~ 16:00	<p>セッション 2 小児環境保健に関する疫学調査 ~ 世界各国で進められる疫学調査 ~</p> <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国：ナショナルチルドレンスタディの取組 ノルウェー：母と子のコホート調査 デンマーク：国家出生コホート オランダ：ジェネレーション R 韓国：小児疫学調査の取組 (MOCEH プロジェクト) 日本：環境省の取組 (小児環境保健疫学調査) WHO の取組：発展途上国における疫学調査の可能性 	<p>佐藤 洋 (東北大学)</p> <p>香山不二雄 (自治医科大学)</p> <p>エドワード B. クラーク (米国ユタ大学)</p> <p>ヴェンケ ニスタット (ノルウェー国立公衆衛生研究所)</p> <p>マッズ メルビー (デンマーク国立血清研究所)</p> <p>アルバート ホフマン (オランダエラスムス大学)</p> <p>エンヒー ハ (韓国梨花女子大学)</p> <p>川本 俊弘 (産業医科大学)</p> <p>ジェニー プロンクズク (世界保健機関)</p>
16:15 ~ 18:00	<p>セッション 3 化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について</p> <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> OECD 及び米国における化学物質の内分泌かく乱作用の試験法開発と今後の展望 環境省による野生生物を用いた試験のまとめと今後の展望 ヒト・実験動物における化学物質の内分泌かく乱作用に関する最近の話題 化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションについて 	<p>井口 泰泉 (基礎生物学研究所)</p> <p>レスリー W. トゥォアート (米国環境保護庁)</p> <p>鎌迫 典久 (国立環境研究所)</p> <p>遠山 千春 (東京大学)</p> <p>崎田 裕子 (環境ジャーナリスト)</p>